

## デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業

1. 創設年度：令和4年度

2. 令和8年度予算額：4.1億円

3. 事業概要

人文社会系等の研究科において、専門分野×データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育の推進により、アカデミック、ノンアカデミック双方において国内外で活躍できるデジタルの素養を持ち合わせた人材を育成。

<補助>

4. 選定理由：ア（アウトカムの設定など、EBPMに係る観点から点検する必要があるもの）

我が国において、様々な業種において、デジタルトランスフォーメーション（DX）を担うデジタル人材が不足する中、学部・研究科の専門分野に関わらず、数理・データサイエンス・AI（MDA）の知識・技術等を活かして社会で活躍する人材が求められている。

自然科学系の分野のみならず、人文・社会科学系を含んだ専門分野で、高度なMDAの素養を持ち、自らの専門分野でデータの分析や生成AIなどの最新技術を活用するデジタル人材の輩出が課題となる中、本事業は令和4年度から開始され、令和7年度に中間評価を行ったところである。今回、公開の場で外部有識者からの効果や成果検証を得ることで、今後、更に取り組を進めていくために必要となる事項について、検討されることが有効であると考えられるため。

5. 想定される論点

- ・ 目的を達成する上で、事業の実施方法が効果的なものとなっているか。
- ・ 事業成果検証のために適切なアウトカム、アウトプットは設定されているか

※ 成果指標（令和7年度）

（短期アウトカム）・専門分野×データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育プログラムの構築数（件）

・ 専門分野×データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のダブルメジャーなどにより新たに構築または内容の高度化を図った科目数（件）

（中期アウトカム）・専門分野×データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育プログラムの履修者数（人）

（長期アウトカム）・専門分野×データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育を修了した学生数（延べ人数）（人）

# デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業 ～X（クロス）プログラム～

令和8年度予算額  
(前年度予算額)

4億円  
4億円

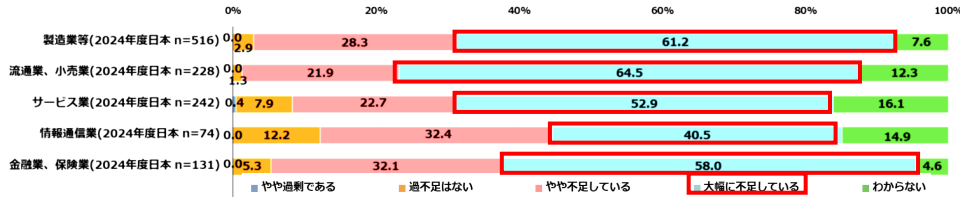


文部科学省

## 現状・課題

- 我が国において、様々な業種において、**DXを担うデジタル人材が不足**する中、学部・研究科の**専門分野に関わらず、数理・データサイエンス・AI（MDA）の知識・技術等を活かして社会で活躍する人材が求められる**
- 自然科学系の分野のみならず、**人文・社会科学系等の分野を含むあらゆる専門分野で**、高度なMDAの素養を持ち、自らの専門分野でデータの分析や生成AIなどの最新技術を活用して、**新たな価値を創造できる、文理横断的なデジタル人材の輩出**が喫緊の課題

<DXを推進する人材の不足>



(出典) DX動向2025 (情報処理推進機構 (IPA))

## デジタル社会の実現に向けた重点計画 (令和7年6月13日閣議決定)

### 第1 目指す姿、理念・原則、重点的な取組

#### 4. 取組の方向性と重点的な取組 (5) 我が国のDX推進力の強化 (デジタル人材の確保・育成と体制整備)

##### ① 社会におけるデジタル人材の確保・育成

教育を通じた人材育成については、教育カリキュラム等の充実や専門性の高い指導者・教員の確保等に引き続き取り組んでいく。例えば、数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムにおける活動や、大学等の優れた教育プログラムを国が認定する制度、大学院における**人文・社会科学系等の分野と情報系の分野を掛け合わせた学位プログラムの構築等**を通して、大学等における数理・データサイエンス・AI 教育を進めていく。

## 事業内容

- ✓ **人文・社会科学系等の分野を専攻する研究科等における、企業・行政等との協働・連携などによる、専門分野にMDA教育を掛け合わせた、実践的な教育を実施する学位プログラムの構築を支援**
- ✓ 経済・ビジネス・教育・芸術（アート・デザイン）など、**多様な分野の情報分野と掛け合わせた文理横断的な教育の実施・展開を促進**
- ✓ 専門分野に応じた高度なMDAの知識・技術を習得した社会から求められる、**各分野をけん引するデジタル人材を継続的に輩出し、多様なイノベーションを創出**

- 支援対象：大学院（専門職大学院含む）を有する国公立大学
- 支援内容：MDA教育に係る人件費、学位プログラム構築・実施の事業費 等

### 【令和4年度選定】

件数/単価	6大学/約47百万円	事業実施期間	令和4年度～令和9年度（予定）
-------	------------	--------	-----------------

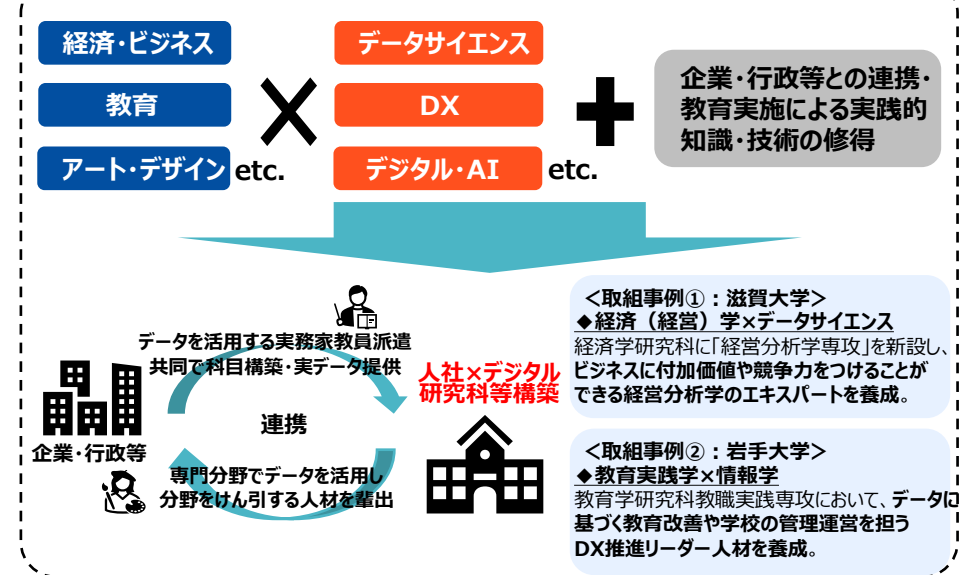
・選定校：滋賀大学、岡山大学、広島大学、九州大学、東北学院大学、名古屋商科大学

### 【令和6年度選定】

件数/単価	3大学/約40百万円	事業実施期間	令和6年度～令和11年度（予定）
-------	------------	--------	------------------

・選定校：岩手大学、東京芸術大学、金沢大学

## <事業イメージ>

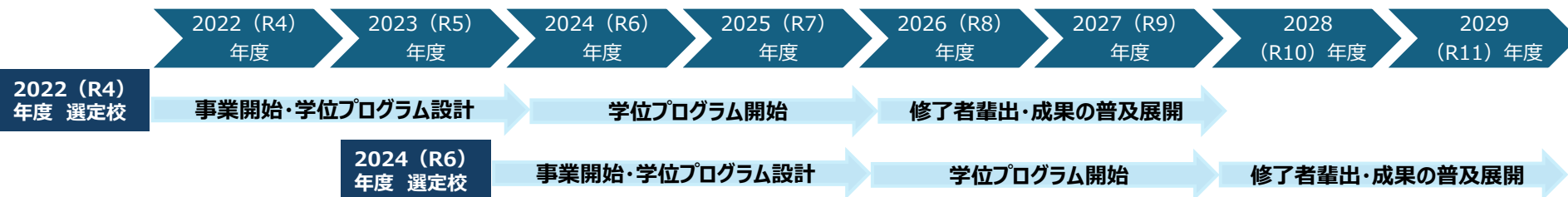


## 事業成果

- 9大学においてデジタルと掛け合わせた学位プログラムが新設
- 多様な実践科目の構築やノウハウが蓄積され、当該分野の先導モデル形成  
⇒我が国における多様なデジタル人材の継続的な輩出・増加に貢献

(担当：高等教育局専門教育課)

# 「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」 事業の流れ、選定校の計画



**デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業委員会（事務局：日本学術振興会）**

- 選定大学の取組状況の把握及び指導助言のため、毎年度のフォローアップを実施
- フォローアップのほかに、事業開始4年目の中間評価、事業終了翌年度の事後評価をもって事業全体の取組状況を評価し、補助期間終了後の自走も含めた改善を促す。



## 2022 (R4) 年度 選定校

大学名	研究科名	専攻名	プログラム開設年度	入学定員	2025(R7) 入学者数	2024(R6) 修了者数
滋賀大学	経済学研究科	経営分析学専攻	2024 (R6)	6名	9名	—
	教育学研究科	高度教職実践専攻	2024 (R6)	5名	7名	—
岡山大学	教育学研究科	教育科学専攻	2025 (R7)	5名	4名	—
広島大学	人間社会科学研究科	教育科学専攻（教育データサイエンスプログラム）	2025 (R7)	10名	5名	—
		人文社会科学専攻（ソーシャルデータサイエンスプログラム）	2025 (R7)	8名	2名	—
九州大学	人文情報連係学府	—	2025 (R7)	6名	3名	—
東北学院大学	経済学研究科	経済データサイエンス専攻	2025 (R7)	4名	5名	—
名古屋商科大学	マネジメント研究科	マネジメント専攻	2023 (R5)	6名 ※	0名 ※	2名 ※

※ 名古屋商科大学についてはダブルディグリー留学前提のカリキュラムを設計しているため、「ダブルディグリー留学派遣者数」の派遣目標人数と実績、学位取得者数を記載

## 2024 (R6) 年度 選定校

大学名	研究科名	専攻名	プログラム開設予定年度	入学定員 (予定)
岩手大学	教育学研究科	教職実践専攻	2026 (R8)	16名
東京藝術大学	大学院映像研究科	ゲーム&インタラクティブ専攻	2026 (R8)	20名
金沢大学	人間社会環境研究科・法学研究科	—	2026 (R8)	10名

# 「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」ロジックモデル (R8年度予算額:413百万円)

## 現状・課題

○我が国において、DXを担うデジタル人材が質・量ともに不足する中、あらゆる企業、自治体、教育現場等では、出身学部・研究科の専門分野に関わらず、数理・データサイエンス・AI(MDA)の知識・技術等を活かして社会で活躍する人材が求められている。

○自然科学系の分野のみならず、人文・社会科学系等の分野を含むあらゆる専門分野で、高度なMDAの素養を持ち、自らの専門分野でデータの分析や生成AIなどの最新技術を活用して、新たな価値を創造できる、文理横断的なデジタル人材の輩出が喫緊の課題。

## 本事業の目的

○大学院の閉塞性・分野の壁を打破し、高度な専門的知識のみならず、数理・データサイエンス・AI分野のスキルや国際感覚を身に付けた、今後の社会を牽引する高度人材の育成のための分野融合の体系的な大学院教育モデルの構築を推進。

○人文社会系等の研究科において、専門分野×データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育の推進により、アカデミック・ノンアカデミックにおいて国内外で活躍できるデジタルの要素を持ち合わせた人材を育成。

### インプット (資源)

R8年度予算額:

413百万円

○支援件数 9件

滋賀大学、岡山大学、広島大学、九州大学、東北学院大学、名古屋商科大学、岩手大学、東京芸術大学、金沢大学

### アクティビティ (活動内容)

○大学院における人文・社会科学系等分野において、データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のマイナー・ダブル学位プログラム等を設定し、データサイエンス・コンピューターサイエンスの素養を持った人材を育成する取組を支援。

### アウトプット (活動目標)

○今後の社会を牽引する高度人材育成のための分野融合の体系的な大学院教育を構築。(本事業における事業実施件数)

KPI  
①

### 初期アウトカム (成果目標)

○専門分野×データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育プログラムの構築数

○本事業により新たに構築または内容の高度化を図った科目数

KPI  
②

### 長期アウトカム (成果目標)

○専門分野×データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育プログラムの履修者数

KPI  
③

## 測定指標と目標値

KPI  
①

事業実施件数 (R7年度: 9件)

KPI  
②

大学院教育プログラムの構築数(R8年度:11件)  
本事業により新たに構築または内容の高度化を図った科目数(R8年度:240件)

KPI  
③

大学院教育プログラムを修了した学生数(延べ人数)(R12年度: 300人)

## デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業

## 基本情報

組織情報	府省庁	文部科学省				
	事業所管課室	文部科学省   高等教育局   専門教育課   情報教育推進第一係				
	作成責任者	松本英登				
	その他担当組織	文部科学省   高等教育局   専門教育課 文部科学省   高等教育局   専門教育課   教育振興係				
基本情報	予算事業ID	001908	事業開始年度	2022	事業終了（予定）年度	2029
	事業年度	2025		事業区分	前年度事業	
政策・施策	政策所管	政策		施策		政策体系・評価書URL
	文部科学省	4個性が輝く高等教育の振興		4-1 大学などにおける教育研究の質の向上		--
関連事業	--			主要経費	教育振興助成費	
概要・目的	事業の目的	大学院の閉塞性・分野の壁を打破し、高度な専門的知識のみならず、数理・データサイエンス・AI分野のスキルや国際感覚を身に付けた、今後の社会を牽引する高度人材の育成のための分野融合の体系的な大学院教育モデルを構築。				
	現状・課題	「IT人材白書2020」においては、将来のIT関連市場の成長の見通しによって低位・中位・高位の3種のシナリオが設定され、中位のシナリオでは、2030年に約45万人のIT人材が不足すると試算されている（「IT人材白書」独立行政法人情報処理推進機構社会基盤センター）。医理工農学など自然科学系分野のみならず、経済学、経営学、公共政策、教育学、法学、芸術など人文・社会科学系等の分野においても、より高度な数理・データサイエンス・AIの素養への需要が増加しており、「専門分野×データサイエンス」のような文理横断の知識・技術を習得した修士・博士を輩出する学位プログラムの創設は、Society 5.0やDXの実現のために喫緊の課題となっている。				
	事業の概要	人文社会系等の研究科において、専門分野×データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育の推進により、アカデミック・ノンアカデミックにおいて国内外で活躍できるデジタルの素養を持ち合わせた人材を育成。				
	事業概要URL	<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/x-pro/index.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/x-pro/index.html</a>				
根拠法令	法令名	法令番号		条	項	号・号の細分
	--	--		--	--	--

関係する計画・通知等	計画・通知名	計画・通知等URL				
	・「経済財政運営と改革の基本方針2021」（令和3年6月18日）	--				
	・「統合イノベーション戦略2021」（令和3年6月18日）	--				
	・「成長戦略フォローアップ」（令和3年6月18日）	--				
	・「デジタル社会の実現に向けた重点計画」（令和3年6月18日）	--				
	・「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」（令和3年6月18日）	--				
	・「AI戦略2021」（令和3年6月11日 統合イノベーション戦略推進会議決定）	--				
実施方法	補助					
補助率等	補助対象	補助率	補助上限等		補助率URL	
	国立大学法人滋賀大学ほか	定額補助 (交付要綱： <a href="https://www.mext.go.jp/content/20240403-mxt_senmon01-000023660_01.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20240403-mxt_senmon01-000023660_01.pdf</a> )	70,122千円		--	
備考	--					

予算・執行

予算額執行額表 (単位：千円)			2022	2023	2024	2025	2026
	要求額		944,700	451,138	1,005,418	477,618	413,226
	当初予算		451,376	451,138	477,618	447,468	--
	補正予算		--	--	--	--	--
	前年度から繰越し		--	--	--	--	--
	予備費等		--	--	--	--	--
	計		451,376	451,138	477,618	447,468	--
	執行額		450,310	450,879	468,093	--	--
執行率		99.8%	99.9%	98%	--	--	

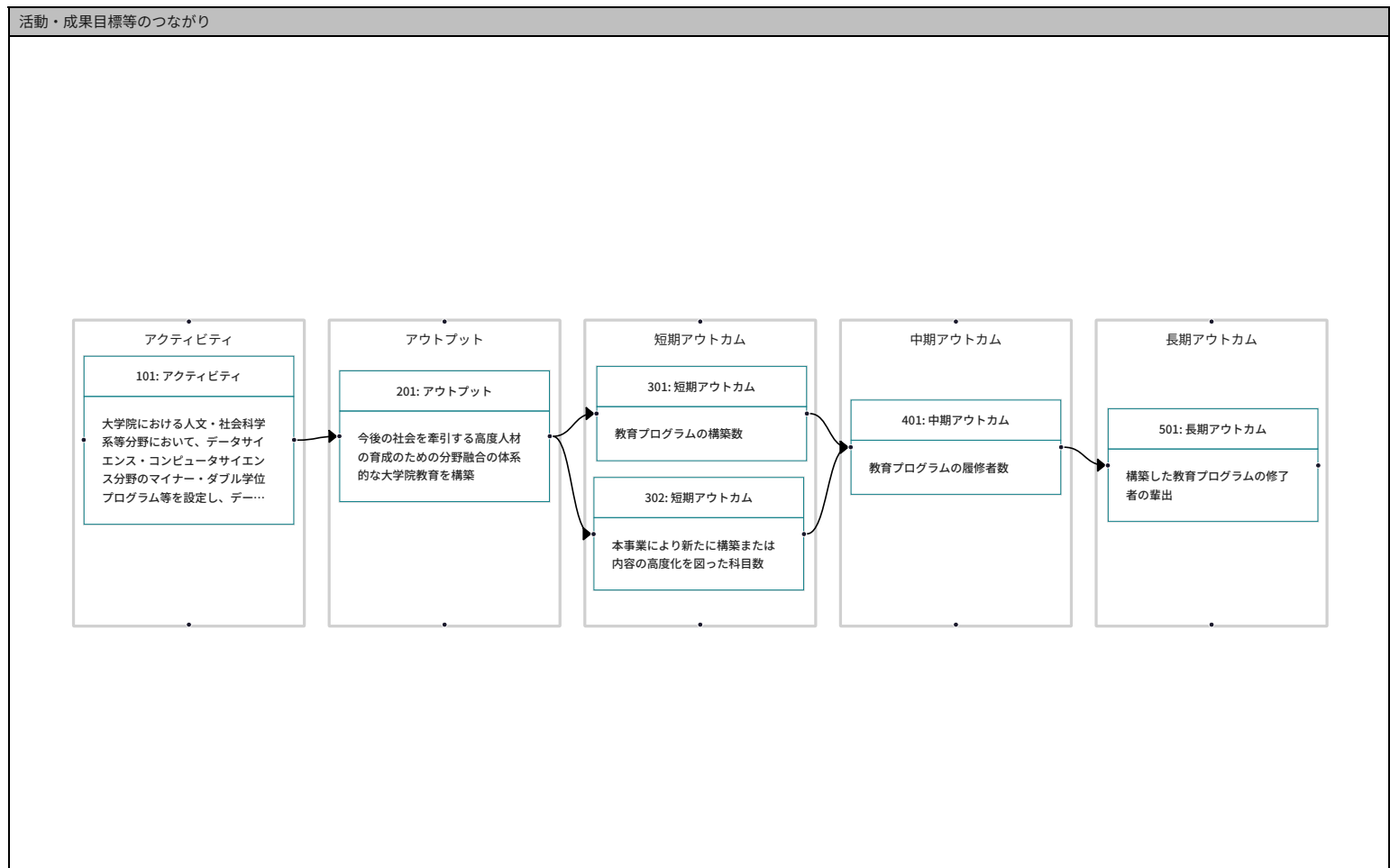
  

予算内訳表 (単位：千円)	会計区分	会計	勘定	要望額	備考	
	一般会計	一般会計	--	--	--	
		予算種別/歳出予算項目		備考	予算額	翌年度要求額
		当初予算 一般会計 / 文部科学省 / 文部科学本省 / 高等教育振興費 / 研究拠点形成費等補助金		--	446,630	412,388
	当初予算 一般会計 / 文部科学省 / 文部科学本省 / 高等教育振興費 / 研究拠点形成等業務旅費		--	838	838	

主な増減理由	--	その他特記事項	--
--------	----	---------	----

効果発現経路



アクティビティからの発現経路 101-201-301-401-501

アクティビティ	大学院における人文・社会科学系等分野において、データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のマイナー・ダブル学位プログラム等を設定し、データサイエンス・コンピュータサイエンスの素養を持った人材を育成する取組を支援。						
アウトプット	活動目標	今後の社会を牽引する高度人材の育成のための分野融合の体系的な大学院教育を構築			活動指標	事業実施件数	
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--			実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名(出典)	--	
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--			アウトカムを複数段階で設定できない理由	--	
活動・成果目標と実績		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度		
	当初見込み/目標値(件)	6	6	9	9		
	活動実績/成果実績(件)	6	6	9	--		
↓後続アウトカムへのつながり	効果発現の初期段階として、人文・社会科学系等と情報系の複数分野の知識・技術を習得することができる教育プログラムを構築することにより、数理・データサイエンス・AIの素養を持つ人材の育成を開始することができると考えられるため、短期アウトカムとして設定した。						
短期アウトカム	成果目標	教育プログラムの構築数			成果指標	専門分野×データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育プログラムの構築数	
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--			実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名(出典)	事業実施大学への状況調査(文部科学省調べ)等による	
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--			アウトカムを複数段階で設定できない理由	--	
活動・成果目標と実績		2024年度	2025年度	目標年度 2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
	当初見込み/目標値(件)	3	8	11	--	--	--
	活動実績/成果実績(件)	3	--	--	--	--	--
	達成率(%)	100	--	--	--	--	--
↓後続アウトカムへのつながり	教育プログラムの構築後、各大学において、数理・データサイエンス・AIの素養を持つ人材の育成を実施することができると考えられるため、実際に当該教育に取り組む履修者数を中期アウトカムとして設定した。						

中期アウトカム	成果目標	教育プログラムの履修者数			成果指標	専門分野×データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育プログラムの履修者数		
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--			実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名(出典)	事業実施大学への状況調査(文部科学省調べ)等による		
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--			アウトカムを複数段階で設定できない理由	--		
活動・成果目標と実績		2024年度	2025年度	2026年度	目標年度 2027年度	2028年度	2029年度	
	当初見込み/目標値(人)	17	63	--	100	--	--	
	活動実績/成果実績(人)	44	--	--	--	--	--	
	達成率(%)	259	--	--	--	--	--	
↓後続アウトカムへのつながり	本事業で構築した教育プログラムにおいて、数理・データサイエンス・AIの素養を持つ修了者が輩出されることで、課題となっているIT・デジタル人材の不足解消につながると考えられるため、長期アウトカムとして設定した。							
長期アウトカム	成果目標	構築した教育プログラムの修了者の輩出			成果指標	専門分野×データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育を修了した学生数(延べ人数)		
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--			実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名(出典)	事業実施大学への状況調査(文部科学省調べ)等による		
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--			アウトカムを複数段階で設定できない理由	--		
活動・成果目標と実績		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	最終目標年度 2030年度
	当初見込み/目標値(人)	2	15	--	--	--	--	300
	活動実績/成果実績(人)	2	--	--	--	--	--	--
	達成率(%)	100	--	--	--	--	--	--

アクティビティからの発現経路 101-201-302-401-501

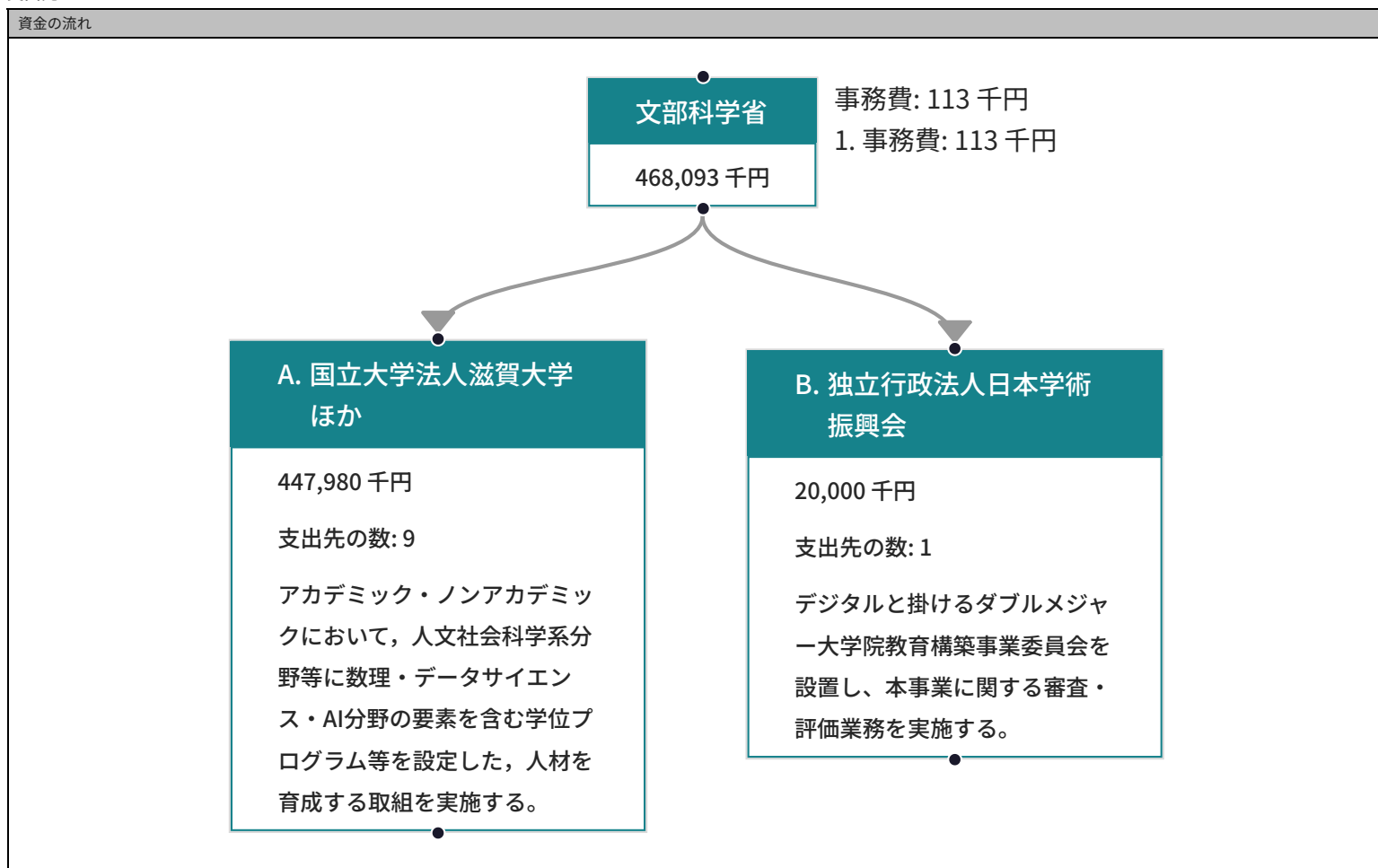
アクティビティ	大学院における人文・社会科学系等分野において、データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のマイナー・ダブル学位プログラム等を設定し、データサイエンス・コンピュータサイエンスの素養を持った人材を育成する取組を支援。						
アウトプット	活動目標	今後の社会を牽引する高度人材の育成のための分野融合の体系的な大学院教育を構築		活動指標	事業実施件数		
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--		実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名(出典)	--		
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--		アウトカムを複数段階で設定できない理由	--		
活動・成果目標と実績		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度		
	当初見込み/目標値(件)	6	6	9	9		
	活動実績/成果実績(件)	6	6	9	--		
↓後続アウトカムへのつながり	効果発現の初期段階として、人文・社会科学系等と情報系の複数分野の知識・技術を習得することができる教育プログラムを構築するため、新たな科目の構築や既存科目の内容の高度化を図ることにより、数理・データサイエンス・AIの素養を持つ人材の育成を開始することができると考えられるため、短期アウトカムとして設定した。						
短期アウトカム	成果目標	本事業により新たに構築または内容の高度化を図った科目数		成果指標	専門分野×データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のダブルメジャーなどにより新たに構築または内容の高度化を図った科目数		
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--		実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名(出典)	事業実施大学への状況調査(文部科学省調べ)等による		
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--		アウトカムを複数段階で設定できない理由	--		
活動・成果目標と実績		2024年度	2025年度	目標年度 2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
	当初見込み/目標値(件)	40	154	240	--	--	--
	活動実績/成果実績(件)	49	--	--	--	--	--
	達成率(%)	123	--	--	--	--	--
↓後続アウトカムへのつながり	教育プログラムの構築後、各大学において、数理・データサイエンス・AIの素養を持つ人材の育成を実施することができると考えられるため、中期アウトカムとして設定した。						

中期アウトカム	成果目標	教育プログラムの履修者数		成果指標	専門分野×データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育プログラムの履修者数			
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--		実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名(出典)	事業実施大学への状況調査(文部科学省調べ)等による			
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--		アウトカムを複数段階で設定できない理由	--			
活動・成果目標と実績		2024年度	2025年度	2026年度	目標年度 2027年度	2028年度	2029年度	
	当初見込み/目標値(人)	17	63	--	100	--	--	
	活動実績/成果実績(人)	44	--	--	--	--	--	
	達成率(%)	259	--	--	--	--	--	
↓後続アウトカムへのつながり	本事業で構築した教育プログラムにおいて、数理・データサイエンス・AIの素養を持つ修了者が輩出されることで、課題となっているIT・デジタル人材の不足解消につながると考えられるため、長期アウトカムとして設定した。							
長期アウトカム	成果目標	構築した教育プログラムの修了者の輩出		成果指標	専門分野×データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育を修了した学生数(延べ人数)			
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--		実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名(出典)	事業実施大学への状況調査(文部科学省調べ)等による			
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--		アウトカムを複数段階で設定できない理由	--			
活動・成果目標と実績		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	最終目標年度 2030年度
	当初見込み/目標値(人)	2	15	--	--	--	--	300
	活動実績/成果実績(人)	2	--	--	--	--	--	--
	達成率(%)	100	--	--	--	--	--	--
事業に関連するKPIが定められている閣議決定等	名前	--						
	URL	--						
	該当箇所	--						

点検・評価

事業所管部局による点検・改善	点検結果	<p>本事業は、「経済財政運営と改革の基本方針2021」（令和3年6月18日閣議決定）等に掲げられた政策を実現するものとして、必要かつ適切なものであり、国が実施すべき事業である。</p> <p>令和6年度は、公募のうえ有識者からなる委員会による公平な審査を経て選定された、令和4年度選定校（6校・8教育プログラム）が事業開始3年度目で着実に事業を進めており、うち3教育プログラム（2校）が開始されている。その他の5教育プログラム（4校）は開始に向けてプログラム構築に取り組んでおり、実現が期待される。また、令和6年度新規選定校（3校・3教育プログラム）については事業を開始した段階であり、現在、3教育プログラムの構築に向けて取り組んでおり、実現が期待される。</p> <p>経費の用途については、各大学に対して補助金交付要綱や公募要領で補助対象経費を明示・限定するとともに、交付申請書等により、内容が真に必要なものとなっているか確認のうえ執行している。</p>		
	目標年度における効果測定に関する評価	--		
	改善の方向性	<p>本事業の実施に当たっては、毎年度の進捗状況・取組実績等を報告書により確認するとともに、中間評価及び事後評価を実施し、評価結果を踏まえた事業内容の改善・定着、成果の普及・発信を行うこととする。</p>		
外部有識者による点検	点検対象	外部有識者による点検対象外	最終実施年度	2023
	対象の理由	--		
	所見	--		
	公開プロセス結果概要	--		
行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見	所見	事業内容の一部改善	詳細	この事業は、概ね計画通りに実施されていると考えられるが、引き続き事業の成果のよりの確かな把握に努めるべきである。
所見を踏まえた改善点／概算要求における反映状況	改善点・反映状況	執行等改善		
	反映額	会計	勘定	反映額(千円)
	詳細	ご指摘に従い、引き続き本事業により得られた成果の適切な把握に努める。		
公開プロセス・秋の年次公開検証（秋のレビュー）における取りまとめ	--			
その他の指摘事項	--			

支出先



支出先上位者リスト (単位：千円)	支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割	
	A 国立大学法人滋賀大学ほか		447,980	9	アカデミック・ノンアカデミックにおいて、人文社会科学系分野等に数理・データサイエンス・AI分野の要素を含む学位プログラム等を設定した、人材を育成する取組を実施する。	
	支出先名		支出額	法人番号		
	国立大学法人滋賀大学		56,130	2160005005646		
	契約概要(契約名)/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策/落札率非公開の理由
	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業補助金等交付補助金等交付		56,130	1	--	--
	支出先名		支出額	法人番号		
	国立大学法人岡山大学		56,130	2260005002575		
	契約概要(契約名)/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策/落札率非公開の理由
	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業補助金等交付補助金等交付		56,130	1	--	--
	支出先名		支出額	法人番号		
	国立大学法人広島大学		56,130	1240005004054		
	契約概要(契約名)/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策/落札率非公開の理由
	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業補助金等交付補助金等交付		56,130	1	--	--
	支出先名		支出額	法人番号		
国立大学法人九州大学		56,130	3290005003743			
契約概要(契約名)/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策/落札率非公開の理由	
デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業補助金等交付補助金等交付		56,130	1	--	--	
支出先名		支出額	法人番号			

	支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割	
	学校法人東北学院		56,130	1370005001402		
	契約概要(契約名)/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策/落札率非公開の理由
	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業補助金等交付補助金等交付		56,130	1	--	--
	支出先名		支出額	法人番号		
	学校法人栗本学園		56,130	1180005007369		
	契約概要(契約名)/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策/落札率非公開の理由
	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業補助金等交付補助金等交付		56,130	1	--	--
	支出先名		支出額	法人番号		
	国立大学法人岩手大学		40,000	6400005002202		
	契約概要(契約名)/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策/落札率非公開の理由
	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業補助金等交付補助金等交付		40,000	1	--	--
	支出先名		支出額	法人番号		
	国立大学法人金沢大学		40,000	2220005002604		
	契約概要(契約名)/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策/落札率非公開の理由
デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業補助金等交付補助金等交付		40,000	1	--	--	
支出先名		支出額	法人番号			
国立大学法人東京芸術大学		31,200	6010505001362			
契約概要(契約名)/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策/落札率非公開の理由	

	支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割		
			デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業補助金等 交付 補助金等交付	31,200	1	--	--
	支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割		
	B	独立行政法人日本学術振興会	20,000	1	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業委員会を設置し、本事業に関する審査・評価業務を実施する。		
	支出先名		支出額	法人番号			
	独立行政法人日本学術振興会		20,000	1010005006890			
	契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業（審査・ 評価事業）補助金等交付 補助金等交付		20,000	1	--	--	
費目・用途 (単位：千円)	支出先名		契約概要（契約名）	費目	用途	金額	
	A	国立大学法人滋賀大学	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業補助金等 交付	物品費	物品費	525	
	--	--	--	人件費・謝金	人件費・謝金	40,470	
	--	--	--	旅費	旅費	172	
	--	--	--	その他	その他	2,010	
	--	--	--	間接経費	間接経費	12,953	
	B	独立行政法人日本学術振興会	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業（審査・ 評価事業）補助金等交付	物品費	物品費	60	
	--	--	--	人件費・謝金	人件費・謝金	14,256	
	--	--	--	旅費	旅費	1,820	
	--	--	--	その他	その他	3,864	
国庫債務負担行為等による契約 先リスト (単位：千円)	契約先名		契約額	法人番号			
	--		--	--			

その他備考

--
----